

住みよいたけし

住みよい武石をつくる会広報

第50号

2025年8月16日発行

事務所 武石地域総合センター内

TEL:0268-85-2511

<https://www.s-takeshi.jp>

印刷 中澤印刷株式会社



ネーチャーゲーム



川で水遊び

「美しい武石の自然の中で、友だちと遊ぼう」 五感を使って自然を体験

7月25日(金)、住みよい武石をつくる会子育て教育文化部会は、お仙が峡上広場で「美しい武石の自然の中で、友だちと遊ぼう」を開催しました(協力:信州たけしのロマンと魅力を掘り起こし発展させる会)。学童保育所ピーターパンの児童24人とピーターパンの先生、つくる会部会員、武石ロマンの会など、大人18人が参加し、ネーチャーゲーム、スイカ割り、水遊びを楽しみました。

ネーチャーゲームでは、江口達夫さんと中原勝也さんの指導のもと、「草むらに隠れている物が何個あるかな?」、「出題した物を広場で探してビンゴを作ろう!」、「立ち止まって聞こえてくる音を教え

て?」、など五感を使って自然を体験するゲームを行いました。子どもたちはグループに分かれて、草むらに目を凝らして「これはどうかな?」と答え合わせをしながら広場を巡りました。

お昼休みの後は、スイカ割りと水遊びを行い、広場には子どもたちの元気な声が響き渡りました。

部会長の小林愼一さんは、「子どもたちに、武石の美しい自然に囲まれて生活していることを感じてほしいと、この行事を企画しました。ネーチャーゲームはこのねらいにピッタリの体験ゲームでした。これからも武石の自然をいっぱい感じてほしい」と話していました。

武石地域防災会議 キックオフ

5月31日(土)、武石地域総合センターにて、自治会役員や地域住民、防災アドバイザーや消防団、市職員など約80人が参集して、第1回武石地域防災会議が行われました。

本会議は、地域住民が主体的に防災・減災について考え、活動するという取組みで、今回は座学とワークショップを行いました。主催は武石自治会連合会、武石地域協議会、住みよい武石をつくる会で、開会にあたり、岡村武文自治連会長より「自分たちの地域は自分たちで守るという意識で、住民同士で助け合い、住民主体の組織が動くことが重要です」との挨拶がありました。



座学では、防災士の松尾卓さんと西藤直義さん、及び市危機管理防災課より、武石地域の過去の災害と令和元年の台風19号災害の状況、住民主体の災害対応の必要性、災害情報の入手方法について学びました。

ワークショップでは武石を5つの地区に分け、各地区内のどこにどんな災害の危険があるかを参加者同士で意見交換しながら地図上に書き入れ、情報共有を行いました。

今後の取組みは、住民主体の防災組織「武石防災協議会」の設立と活動、「上武石地区」をモデル地域とした防災検討を進めるとしています。

会議の参加者からは、「地図上に危険箇所を書き込むことで地域の状況がわかった」、「住民主体の具体的な事例がよくわかった」などの意見がありました。

武石をきれいにしたい 自然・生活環境部会で草刈り作業

6月15日(日)、自然・生活環境部会は武石公園周辺の歩道と尾根の遊歩道の草刈りを行いました。今回は、さつき橋より西側の地域を部会員5人で手分けして実施、1時間半程の作業に汗を流しました。

6月28日(土)には、武石新橋付近の県道のり面の草刈りを行いました。部会員10人で約1時間、炎天下の作業となりました。

また、7月19日(土)には、武石ロマンの会、武石自治センター、および武石観光センターとの合同作業で、巢栗溪谷周辺の遊歩道と広場の整備、草刈りを行いました。



武石公園遊歩道



武石新橋付近 県道のり面



巢栗溪谷 お仙が峡上広場

部会長の橋詰明德さんは、「武石公園化構想の一環として、地域をきれいにしたいという想いでやっています。武石はきれいな所だなと思ってもらえたらうれしい」と話していました。

巣栗溪谷案内看板の検討会

6月21日(土)、武石地域総合センターコミュニティホールで、市担当職員、長野大学生、地域住民など約30人により、巣栗溪谷周辺に設置する案内板検討会が開催されました。

上田市は”魅力ある観光地づくり”に向けた観光振興策として”巣栗溪谷緑の広場整備事業”を掲げ、今年度は案内看板のリニューアルを行う計画です。

看板の作成、設置について長野大学環境ツーリズム学部の松下ゼミに協力を依頼、5月24日に現地調査を行った結果を踏まえて、巣栗溪谷全体の活用と課題、看板類を活用した巣栗溪谷の利用推進と広場名称の2つのアイデアなど、松下ゼミで調査・検討した結果を発表し、住民との意見交換を行いました。

ワークショップでは、巣栗溪谷で今後の利活用にあたって整備が必要な個所や要望、また、どこにどんな看板がほしいか、を地図とワークシートに書き出す作業を行いました。



参加者からは、県道を通らない遊歩道の整備、段差や急勾配の改良、トイレの設置、駐車場の場所がわかり難いなど、意見、要望が出ました。

上田市は今回の事業について、地域住民を含めた”産学官”の協働作業により進めたいと考えていて、「できるだけ皆さんのアイデアを生かして、良いものを作りたい」と話しています。

看板の設置完了は、来年のシーズン前頃を予定しています。

ちらし寿司弁当の販売

産業経済部会

6月26日(木)、産業経済部会はお弁当販売の第2回目として、ちらし寿司弁当の販売を行いました。今回もひだまり武石の調理室で調理し、つなぐ家さんで販売しました。販売予定時刻には計画を聞きつけたお客さんが次々に来店、お昼時には用意した36パックがすべて売れました。

とても好評ですが、7、8月は猛暑のためお弁当販売は行わず、秋に再開する予定です。



長野県交通安全運動推進本部顕彰 橋詰 明德さん(藪合)受賞

依田窪交通安全協会武石支部事務局の橋詰明德さんが、県交通安全運動推進本部(本部長は阿部県知事)より、「交通安全功劳個人」にて表彰されました。個人での表彰は長野県で18人、上田警察署管内では3人とのことです。

橋詰さんは18年前に地区長に就任、16年前からは武石支部の事務局を務めています。現在、武石支部には地区長を含む50人の地区役員が所属、年4回の交通安全期間中の街頭指導、安全確認の支障となる木の枝切り、カーブミラーの清掃、ともしびの里駅伝での安全誘導、などの活動を行っています。

「長く事務局をやってきて、このような賞をい



ただき、大変うれしく思います。もうしばらくは事務局を続けたいです」と橋詰さんは話していました。

《武石地域人権講演会》

誰もが「ただいま」といえる社会に ～命の大切さを考える～

2019年4月に発生した池袋暴走事故の被害者遺族松永拓也さんを講師に迎えた人権講演会が、6月28日(土)武石地域総合センターを会場に開催されました。時折涙をこらえながら1時間半に渡り辛い体験を語っていただいた松永さんに、集まった約120人が聴き入りました。

後を絶たない高齢者による交通事故、一方田舎では車は大切な日常の移動手段。高齢者の運転免許返納には、これに代わる交通手段の確保などの課題もあります。松永さんが体験したような犯罪



被害は、誰にでも起こりうる。自分事として考えていく必要があります。

《松永拓也さんのお話》

生まれたばかりの長女莉子に人差し指を差し出すと、小さな手がしっかりと握り返してくれた。

命の尊さを教えてもらい、親子3人で幸せな生活がずっと続くと思っていた。

2019年4月19日、いつものように昼休み、スマホで妻真菜と情報交換をした。今日は定時で帰ることを告げ、娘に絵本を読む約束をする。

池袋の公園に妻は莉子を連れて来ていた。

午後2時突然警察から事故の一報が入るが、詳細は教えてもらえなかった。電車に飛び乗り病院に向う車中でヤフーニュースを見ると、「池袋の事故、車にはねられた30代女性と3歳くらいの女の子が心肺停止で病院に搬送」との記事、電車の床にへたり込んでしまう。病院に着くと医師から、ほぼ即死の状態だったと告げられる。

全てを失い、ビルの屋上から飛び降りようとするが、妻と娘の声が聞こえて、思いとどまった。

事故から2ヶ月、関東交通犯罪遺族の会「あいの会」に出会った。妻と娘の命を無駄にしたくないという想いから、交通犯罪再発防止に向けた活動を続けています。

事故そのものが耐え難い経験でしたが、そのほかにもSNSによる誹謗中傷などに深く傷つけられる体験もしました。被害者の立場を理解し、思いやりの心を持って接して欲しいと願っています。

これらの体験を通して、少しでも社会に貢献できればと思い、日々活動に励んでいます。



【お詫びと訂正】

6月発行の会報49号3頁、各部会の正副部会長の一覧表で産業経済部会の副会長に「内田安博」さんのお名前が漏れていました。右表のとおりとなります。

お詫びして訂正いたします。

部 会	部会長	副部会長
産業経済部会	橋詰 真由美	柳沢 裕子 内田 安博

お知らせ

『武石栗栗溪谷 森林浴トレッキング』

日 時 9月7日(日) 9:00～12:00(受付8:30～)

場 所 武石観光センター

内 容 森林浴トレーナーによる自然豊かな溪谷で行う森林浴トレッキング

講 師 上野美知子氏(Coもれび代表理事、ねりま森林浴トレーナー)

対 象 中学生以上

定 員 先着14名(参加費：無料)



申込・問い合わせ先 住みよい武石をつくる会 電話 0268-85-2511

真田家重臣原昌貞と武石 I

郷土史家 児玉卓文

上田市が平成28年度から31年度にかけて行った市内の仏像^{しゅうがい}悉皆調査により、中世以前の古い仏像が40体ほど(武石地域で3体)再発見されました。

下図は諏訪部の浄土宗芳泉寺の阿弥陀如来立像で、寺の城主の間に安置されています。室町時代の作として市指定文化財になっていましたが、この調査で鎌倉時代の作とされました。



芳泉寺阿弥陀如来立像



光背裏朱書き



台座裏朱書き

この像の光背(後光)の裏と台座の裏には下記の朱書きがあり、慶長17年(1612)に原浄貞が資材を投じて修復したことを記しています。

御光を造立奉る、南無阿弥陀仏信心の施主原浄貞、時に慶長十七壬子年三月十三日常福寺第六代安誉上人

原浄貞は、武田氏の旧臣で真田家の重臣になった原半兵衛^{まささだ}昌貞が仏門に入った名です。真田昌幸と信之に仕え、関ヶ原の戦いの翌年には、550貫文(1650石相当)と家臣中最大の知行を与えられ、同心も最大数を配属されています。

一方常福寺は、真田昌幸の上田城築城当初に、諏訪部にあった芳泉寺の前身の寺で、真田氏と深い関わりを持っていました。

これに似た朱書きが、長野市松代の信之の正室小松姫の菩提を弔う浄土宗^{じょうどしゅう}皓月山大英寺の阿弥陀

如来立像の背面にあります。

常福寺方丈仏校割也、信心の旦那原浄貞、台座・後光を造立奉る、一代自仏堂に安置申し、往生已後、御寺に納め置き申すべき也
時に慶長十七壬子三月八日、常福寺第六代安誉上人御代也

大英寺の阿弥陀立像の台座と光背も、浄貞が施主となって造っていることが分りますが、こちらの仏像は浄貞が存命の間は自分の守り本尊として持仏堂に安置し、死後に御寺(常福寺)へ納めるとしています。

慶長17年は昌幸が死去した翌年です。その4年後の元和2年(1616)、信之は浄貞に武石村で土地を給付しています。

別して年来奉公の条、武石の内田村分不作所拾貫文の所、その方夫婦屋敷分に下され候、その方以後は新九郎に下さるべきもの也、仍って件の如し
丙辰 九月十二日 朱印(真田信之)
原浄貞斎

10貫文(30石相当)の地は、奉公に報いる隠居領として給付されたと思われます。書状に名がある新九郎は浄貞の子と見られ、彼もまた同日付で、信之から別の場所で60貫文を給付されています。

興味深いことに、信之は原父子あて朱印状と同日付で、浄土宗正念寺に次の書状を出しています。

望みに任せ、貴僧ただ今の居屋敷並びに上平不作の内にて、高辻合わせて壹貫五百文の所進め置き候、但し料所本納の外也、仍って件の如し
丙辰 九月十二日 朱印(真田信之)
正念寺

『信濃史料』はこれを寄進状としていますが、信之が正念寺の要望(望みに任せ)により、現在の境内地(只今の居屋敷)、昔寺があった地(上平)〈明治14年書上げの『下武石村誌』〉を安堵(保証)するもので、正念寺の再興ではなく、正念寺の故地と寺領が保証され、由緒の明確化がなされたように思われます。

大英寺阿弥陀像光背の朱書や同日付の信之の朱印状3通は、隠れた歴史を秘めているように思えます。

武石を盛り上げる
人々グループ紹介

武石の人・団体



赤十字奉仕団で炊き出しをしました

2月28日(金)昼ごろ発生した林野火災時に、武石地域自治センターより赤十字奉仕団へ炊き出し要請があり、3月1日(土)～2日(日)の二日間にわたり炊き出し対応を行いました。(1日目30人、2日目15人、のべ計45人)

3月1日(土)の朝、「炊き出しをお願いしたい。200人分をお願いします」との要請が奉仕団にありました。炊き出し経験が無く、どのように対応するか細かな検討をする暇もなく、連絡網を使って団員への出勤依頼と、別班5人で材料調達のため丸子のスーパーに向かいました。当時はお米の品不足が続き、数量制限もありましたが、在庫のあるスーパーをさがし、店員さんに事情を説明して5袋(50kg)を購入、その他の材料も調達して武石地域総合センターの調理室に向かいました。

調理室に入ると、連絡を受けた団員30人が既に集合していて、炊飯器の設置やおにぎりを作るための準備ができており、すぐに作業に入れたそうです。

1日目は、依頼のおにぎり400個(2個/人×200人)のところ665個を作り、現地指揮本部のある権現ふれあい教室に届けることができました。

2日目は、おにぎり200個とみそ汁の要請で、お米は市から提供、野菜などは役員が持ち寄りました。みそ汁は調理室で下準備をして、権現のふれあい教室にて作りました。途中でおにぎりの数が足りないとのことで、これから材料の買出しに行っている時間がないことから、家にあったお米27kgを集め、おにぎりを追加でにぎりしました。

今回の炊き出し対応をやってみて、「とにかく団員の皆さんの手際の良さに助けられました」とのことです。大型の炊飯器を使ったご飯炊きや、おにぎりを手分けして作っていく様子に、大きな混乱はなかったそうです。

武石地区赤十字奉仕団

委員長 滝沢 すみ代さん

◆武石地区赤十字奉仕団◆

赤十字奉仕団は、赤十字の博愛人道の精神に基づき活動している日本赤十字社のボランティア団体です。赤十字奉仕団は市区町村単位で組織されますが、上田市では合併前の上田、丸子、真田、武石の4地区で組織されており、地域に密着した活動を展開しています。

武石地区赤十字奉仕団は、現在68名が所属していて、事務局を武石地域自治センター市民サービス課内に置いています。平常時は、毎年行われる武石地域防災訓練にて炊き出し訓練の実施、各種研修会・講習会の受講、武石ボランティア協会の活動への参加、などを行っています。

一方で2日目の緊急対応からは、「動員人数や提供する食事の数など、多めに想定して対応することが大事です」と反省点を話していました。



今回の炊き出し対応について、「応援に来ていただいた消防団の方から、”温かい食事が取れて良かった”との評判を聞くと、うれしかったし、やりがいのある仕事だと思いました。とても貴重な経験でした」、「現在、事務局の方と話し合いながら、次世代の人たちに災害時の炊き出し要請があった時に困らないよう、今回の事について記録に残し、手順などを定める作業をしています」とのことです。

「赤十字奉仕団の活動に関心を持ってもらい、メンバーに加わってもらえたらうれしいです」と滝沢さんは話していました。

武石地区赤十字奉仕団のメンバー募集中

お問い合わせ

武石地域自治センター 市民サービス課 まで
電話：0268-85-2068